

「丹波市地球温暖化対策実行計画」

∞平成 23 年度 進捗状況報告（平成 22 年度実績）∞

「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づき、平成 19 年度に策定した「丹波市地球温暖化対策実行計画」は、温室効果ガス排出量、実行計画の数値目標の達成状況等を把握し、温室効果ガス排出の抑制を行うことで、地球温暖化対策の推進に取り組んでいくことを目的としています。

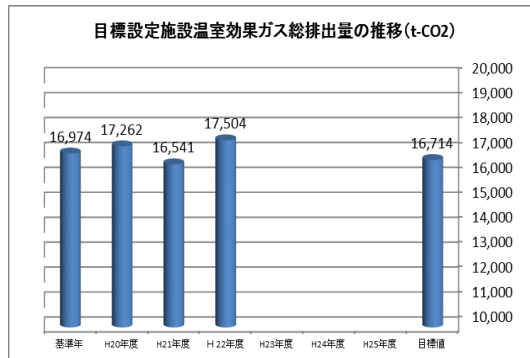
☆ 計画の概要 ☆

- 計画の基準年：平成 19 年度
- 実行計画期間：平成 21 年度～平成 25 年度（5 年間）
- 調査対象施設：庁舎を含めた公共施設
- 計画対象温室効果ガス：CO₂（二酸化炭素）、CH₄（メタン）、N₂O（一酸化二窒素）、HFC（ハイドロフルオロカーボン類）
- 基準年の温室効果ガス排出量：16,974 t
- 温室効果ガス削減目標：1.5%（目標排出量 16,714 t）

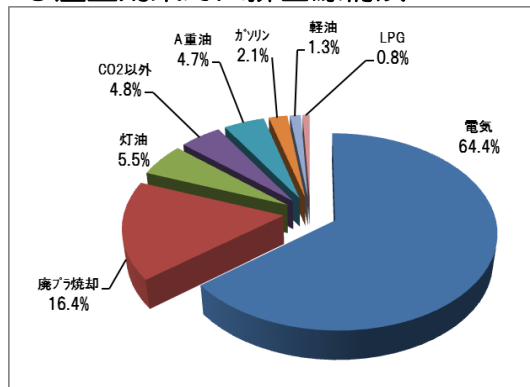
☆ 平成 22 年度温室効果ガス排出状況 ☆

- 平成 22 年度の温室効果ガス排出量は 17,504 t となり、基準年の排出量に対して増加しています。
- 温室効果ガス排出源構成では、電気による排出量が 2.1%（約 228 t）増え、排出量が全体の 64.4%を占めています。
- 排出源別温室効果ガス排出量の増減状況は、電気及び廃プラスチック焼却による排出量は増加していますが、ガソリン、軽油、灯油、A 重油、LPG 及び CO₂ 以外の温室効果ガス*による排出量は減少しています。
灯油の使用による排出量が 25.0%減少したことについては、休養施設やすら樹及びリフレッシュ館が指定管理者制度の施設となり、調査対象外施設となったことが減少の主要因と考えられます。
しかし、クリーンセンターでの廃プラスチック焼却量が基準年の排出量に対して 41.0%（約 836 t）増加しています。

● 温室効果ガス排出量推移



● 温室効果ガス排出源構成

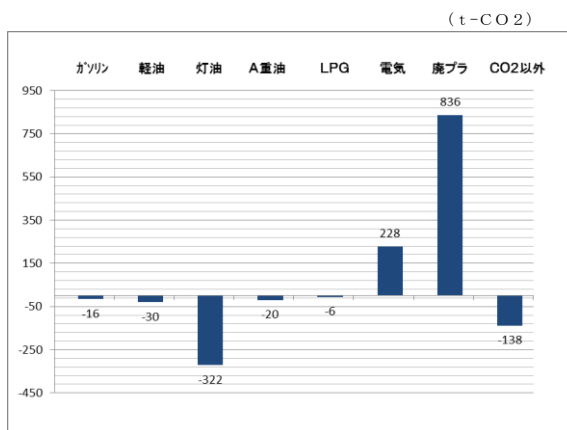


※CO₂ 以外の温室効果ガスとはメタン (CH₄)・一酸化二窒素 (N₂O)・ハイドロフルオロカーボン類 (HFC) です。
また、このガスの排出源は、し尿処理や浄化槽、公用車の走行やカーエアコンからの冷媒漏えい等によります。

● 排出源別温室効果ガス排出量及び増減状況

(t-CO₂)

項 目	H19年度	平成22年度		増減
	排出量	排出量	基準年対比	
燃 料	ガソリン	391	375	-4.3%
	軽油	250	220	-12.1%
	灯油	1,290	968	-25.0%
	A重油	839	819	-2.4%
	LPG	151	145	-3.7%
電 気	11,037	11,265	2.1%	228
廃プラスチック焼却	2,038	2,874	41.0%	836
CO ₂ 以外の温室効果ガス	976	838	-14.1%	-138
温室効果ガス全体	16,974	17,504	3.1%	530



☆ 温室効果ガス削減に向けての今後の課題 ☆

平成 22 年度の丹波市の温室効果ガス排出量は 17,504 t となり、基準年の排出量に対して 3.1%（約 530 t）増加し、現状では削減目標の 1.6%を上回る結果となりました。廃プラスチック焼却量が基準年の排出量に対して 41.0%増加していることから、温室効果ガス削減に向けての今後の課題として、市の職員の取組の継続及び廃プラスチック焼却量の削減に向けた取組が必要となります。廃プラスチック焼却量の削減には、市民の皆様方にごみの減量化及びごみの分別・リサイクルの推進に御協力を頂くとともに、市内の各公共施設でもごみの排出時にはごみの分別の徹底を強化する等、一人ひとりの意識を高めていくことが今後の課題となります。